

テーマ「一般肩チーム、内科系理学療法」

今回の特集は、一般病棟を担当している理学療法士の肩チームと内科系理学療法についてです。当院では回復期病棟と一般病棟、緩和ケア病棟があり、療法士が各病棟や外来での対象患者様に対するリハビリテーションを行っています。

一般肩チームの紹介

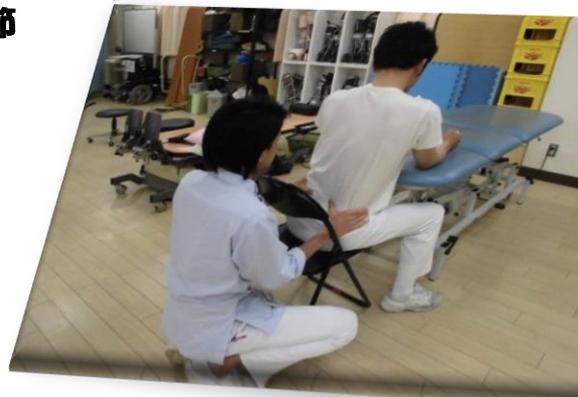
当院の肩関節専門外来を受診される方々の主たる悩みが「肩の痛み」であります。その悩みに対して肩関節治療専門医の診断のもと、肩関節を専門とする理学療法士がリハビリテーションを行っています。

○役割・内容

当院の肩チームは、肩関節治療専門医と綿密な連携を図り、対象となる患者様一人一人に応じた計画を毎週のミーティングで立て、その患者様の状況に応じた訓練を実施しています。肩関節疾患の方の多くが肩だけの問題でなく、全身の機能障害が肩の痛みや障害につながることも多くありますので、肩関節だけでなく全身からのアプローチを心がけて行っています。

○活動

10月の学会発表に向け頑張っています！！



当院の肩チームにおいては、臨床現場はもちろんの事、その他に研究活動にも力を入れています。医療職である以上、研究の目的は常に**臨床・患者様へ還元**することであり、肩チームは肩学会等へ日頃の研究活動を発表しています。

そして、内科系理学療法について紹介します。

内科系の障害は身体内部の臓器に生じた障害であり、外見からはその障害像が把握し難いです。主に心疾患、呼吸器疾患、腎機能障害の患者様を対象として、薬物治療に併せて理学療法を行い、身体機能や日常生活活動、生活の質の向上を目指して行っています。

内科系障害の患者様は、長期の安静や臥床などにより身体活動の低下をもたらし、運動機能の障害を悪化させ、さらに内科系障害が悪化するという悪循環が生じやすいです。その為、われわれは早期から担当医師の指示のもと介入を行い、生じている悪循環を断ち切るために理学療法を行っています。当院では、また、透析患者様に対するリハビリテーションも充実して行っており、退院に向けて支援しております。



ここで一つ...

みなさん、右図のようなマークを見た事がありますか？

いったい何を表したものでしょう?? そう、**ハートプラスマーク**

です!! ハートプラスマークって??

車椅子マークや身体障がい者マーク、マタニティマークなどは最近街のあちらこちらでみかけられるようになり、知っている方も多くおられる事と思います。

し・か・し...、このマークってあまりみかける機会が少なく、初めて知ったって方も少なくないと思います。このマークは、内部障害・



内臓疾患を示すマークであります。身体内部を意味する「ハート

マーク」に、思いやりの心を「プラス」したものであるそうです。内臓に障害があっても、外観では判りにくく周りの方に気づいてもらえずに困っている方が多くいます。

今日このマークを知ったあなた、街でこのマークをおめにかかった際はそんな方に対して

思いやりの言葉・行動をお願いします!!!

次回のリハビリブログは、ST(とろみの統一・ソフト食開発等)を特集します!

次回もお楽しみにして下さい!!